



家庭学習の充実に向けて考える 唐津地区学力向上フォーラムが開催されました



6月13日(日)玄海町町民会館において、唐津地区の学力向上についての説明や「家庭学習」についての学校からの取組報告、講演が行われました。当日は、保護者、教職員、教育関係者など、約220人の参加者がありました。

【講演】「家庭学習」で育てよう！

子どもの学力・夢・希望！ ～チームで作る家庭学習ノート活用法～
講師 スタジオ☆くみこ 代表 菅原 久美子 氏



菅原先生は、家庭学習アドバイザーとしてだけでなく、ソプラノ歌手、日本サービスマナー協会認定マナー講師など様々な活動をされています。今回の講演においては、家庭学習のポイントや子どもへの関わり方について具体例を紹介しながら教えていただきました。

- 家庭学習は「毎日続けること」が大切です。そのためには、学習の内容だけでなく、環境づくり(姿勢、文具、机の上の整理、空間づくり)にも気を付けましょう。
- 家庭学習ノートは、子ども・保護者・教師の交換日記のようなもの。学習の成果を記録して、それぞれの気持ちを伝えるツールにしましょう。ほめ言葉は子どもの最大のモチベーションです。
- 1日の家庭学習の計画を立てることは、習慣化の第一歩です。計画表を作るときは、子どもと保護者が相談しあってきめることが大切です。まずは、学校、習い事、睡眠など固定の予定を入れてみましょう。そうすることで、家庭学習の時間が見えてきます。

【報告及び実践発表】

(1) 唐津地区の学力向上について

○西部教育事務所北部支所 指導主任 森田 祐香

- ・学習指導要領では、「知識の習得」から「生きて働く知識の活用」への転換が大切であり、カリキュラムの改善を図ることも求められている。
- ・学校と家庭が連携交流して、子どもたちがそれぞれの「納得解」「最適解」を見出していけるように支えていくことが大切である。



(2) 「家庭学習の充実」による学力向上への取組

○玄海みらい学園 指導教諭 米倉 智久

- ・保護者との2者面談の時期に合わせて「自学ノート展」を開催している。保護者だけでなく子どもたちも友だちの自学ノートを見て参考にする姿が見られる。
- ・前期課程・後期課程の先生が一緒になって、指導案の検討をしたり、授業後の意見交換を行ったりしている。



○唐津市立切木小学校 教諭 轟田 卓司

- ・自分の学習状況を考慮した学習課題を、自分で決めて計画的に家庭学習をする「のびっこ自学」に取り組んでいる。
- ・授業と家庭学習との関連をもたせるように、パーソナルワーク(一人学び)を家庭学習で行う取組を行っている。



○唐津市立巖木中学校 教諭 山添 加奈

- ・「Q-Friends」(次の日の授業連絡、日記、家庭学習のためのプリント集)により、学習習慣の定着が見られるようになったり、生徒に家庭での過ごし方についてアドバイスができたりしている。
- ・「Q-Friends」と「Q-TIME」(帰りの会の10分間の学習時間)、「Q-TEST」(Q-TIMEの隔週で行うテスト)を関連付けながら取り組んでいる。



なお、出席者からの主な感想は以下のとおりです。

- 勉強というのは、子どもだけではすべき内容や方法が分からないと思うので、親も一緒になって家庭全体で考えることが大事だと思いました。(保護者)
- 今回聞いた各学校の実践を個人で取り組むのではなく、学年全体や学校全体で共通理解・共通実践することが重要だと思いました。(教職員)
- 家庭学習について子どもと一緒に考えたい。まずはコメント欄を記入したいと思いました。(保護者)
- 子どものやる気を継続することに必要なのは「ほめること」であることを再確認しました。(保護者)
- 子ども任せではなく、家庭・学校がしっかりと関わって、家庭学習を充実させていく大切さやポイントが分かったので、これから生かしていきたい。(教職員)